

1 **学びづくり部** (設問 4.5.6.7.9) について

中間評価と比べて、児童と保護者は、「友達の考えを聴いて、話し合いながら学びを深められている。」の項目について児童 93.1→94.4%、保護者 82.7→88.9%と伸びがみられます。子どもが対話活動のある授業に取り組んだり、子ども自身が友達の考えを聞くことに価値を見出したりできているためと思われます。



「食農教育で学びを充実させている」「向笠の自然や歴史について関心がある」の項目では、



児童 96.1→97.6%、保護者 91.8→95.5%と実感していることが伺えます。体験的な学びと高学年ではそれに伴う調べ学習による学びがうまく融合できていることが成果として出ているのではないかと考えます。自由記述欄の保護者意見から子どもたちが活動の様子を家でも楽しそうに話していることが分かります。このことが高い評価の要因の一つではないかと考えます。意図的な話し合い活動、考える時間の確保やペアまたはグループ学習の実施、思考力を高める反転学習等の取組により、協働学習がより充実したものになっています。

課題として、職員は「子どもたちが授業の内容が分かったか振り返って、次の課題を見つけている」と捉えている割合が 64.8%から 78.6%と伸びていますが、児童と保護者は、成果として実感できていないことが挙げられます。以前より振り返りを重視し次の課題を設定していますが、子どもたちに十分浸透しきれていないため、今後も継続していく必要があると考えます。また、「当該学年の学習内容を理解している」「自分の考えを伝えること」においても、児童 92.1→89.7%、職員 92.9→85.7%と中間評価よりも低くなっています。授業改善を積極的に進めていますが、本年度より実施された新学習指導要領への対応により十分に達成できていないことに加え、感染症対策等により、授業が通常通りの形式で実施しづらくなっていることも要因として考えられます。今後は新しい生活様式を踏まえ、ICTの活用が一層進みますので、オンラインによる授業やタブレットなどの情報機器の活用方法などにも力を入れ、次世代を担う子どもたちが社会で役立つ人に成長する素地を培いたいと考えます。

2 **仲間づくり部** (設問 13.14.15.17) について

異学年交流を柱に取り組んだ運動会やファミリーウォークラリー等の行事では大きな成果を上げることができました。評価項目「ファミリー活動に取り組んでいる。」では、児童 96.3%保護者 97.4%職員 100%と高評価を得ています。週2回のFタイムが定着してきたことにより、子ども主体となる活動を楽しむことができています。読書週間では、ファミリーで本の紹介をしたり、持久走月間でも、体操を一緒にしたりして、ファミリーグループの絆が強まりました。



また「自分の役割を考え、みんなのために行動している」項目は、児童 93.2%保護者 89.5%職員 85.9%であり、中間報告より児童と職員で若干低くなったものの、今までよりも「さらに役割を考えていきたい、考えてほしい」という思いの表れではないかと考えます。

中間報告で課題としてあげられた項目「かがやきカードやかがやきノートで自分のかがやきや友達のかがやきを見つけている。」では児童 64.2%→66.2% 保護者 56.5%→62.9%職員 69.2%→57.1%児童と保護者で少しずつですが評価が高まっています。現時点では十分に活用することができていないかもしれませんが、確実に進歩しているので、自己肯定感を高めて自信をもたせる方策として、今後も続けていきたいと考えます。



さらにFタイムでは企画・運営していく時間をたっぷりと確保していくことが主体性を育む上で大切だと考えます。「自分で決めたためあてに向かって最後までやり抜くことができる。」の項目では、児童 93.8%→92.7% 保護者 76.7%→85.2% 職員 92.9%→92.9%と差が見られます。今後は、体育の行事などを含めて普段からめあてを決めて取り組んでいることを本人の自信につなげていけるよう努めていきます。

保護者の皆様からの御意見・御要望（主なもの）について

保護者の皆様からは、「子どもたちのよい表れや学校のよさ」について、多くの声をいただきました。一部を御紹介します。「安全な学校生活ができていることにありがとうございます」「コロナで例年と違うことの多い中、できるだけいつも通りの学校生活を送れるようにご配慮いただいた」「創意工夫をもって充実した生活を送らせていただいていることをありがたく思う」「いろいろ工夫を凝らし学校行事を行う方向で考えてくださったことに心から感謝」などといった温かな言葉を予想以上にいただきました。とりわけ異学年交流（ファミリー活動）については肯定的な受け止めをしてくださった方が多く、児童・職員の自信につながりました。「向笠小の小規模という特徴を生かしたとても良い活動だと思うので今後も続けてほしい」「異学年交流は向笠小(小規模校)ならでは、すごく強みであると思う」「ファミリーグループを4つにしたので1つの人数が増え、より活動しやすくなっているように感じる」「学校行事やファミリー活動がとても充実している。学年関係なく、仲良く遊べるのはとても良い」「学校行事やファミリー活動を通して、異学年との交流もでき、小規模校の強みを生かした教育をいただいていると思う。子どもにもいい刺激になっている。」「一クラスの人数が少ないため、異学年交流はとても良いと思う。どんどん活動していただきたい」等です。本当にありがとうございました。

一方で、「よりよい学校づくりに向けての御意見・御要望」もいくつかいただきました。私たちが気付いていないところへの御意見や御指摘は、大変ありがたいものです。このことを謙虚に受け止め、改善策等を考えていきたいと思えます。

御意見・御要望	学校より
「補充発展学習とは何なのか、誰のためなのか、難しいなと思う」「補充発展学習についてはもう一つ目的がつかみきれいていません。始まったばかりなので仕方ないかもしれませんが、より充実した内容になればと親子とも期待している。」	理解がゆっくりな子に「できる」という自信を、深く興味関心をもった子にさらなる発展的な学習の場を設けたいとの思いからこの時間を設定しました。具体的な進み方については今後も各担当が子どもの実情を踏まえ、目的を達成できるよう考えていきます。保護者の立場からよりよくする御意見がありましたら担任までお知らせください。
「何かと車で送迎してくださいが多すぎる。雨の中、傘をさして歩くのも大事な経験、濡れないようにするためにはどうしたら良いかを考えるのも生きていくうえで大切な経験ではないか」	ゲリラ豪雨のような強雨や、梅雨時期に1週間以上続く長雨があり、通学路の一部に土砂災害警戒区域を抱えている本校としては、子どもの登下校がとても心配になりました。そのため、PTA地域生活部の役員さんとも相談させていただき、地区ごとで話し合った上で送迎をお願いしてきました。今後も御理解・御協力をお願いいたします。
「大勢が集まる行事についてオンラインを活用してみても」「持久走記録会での低学年・中学年・高学年と行っているが、記録の順位を学年別にした方が良いのでは」「小中一貫校の開校に向けて中学生を交えた小1から中3のファミリー活動にチャレンジしてはどうか」	建設的な御意見をありがとうございました。大変参考になります。現在、次年度に向けての話し合いを進めております。前向きに検討していきます。

今後も、子どもたちの健やかな成長のために、全力で努力していきますので、変わらぬ御協力・御支援をよろしくお願いいたします。

担当 教務主任
(高 柳)

38-0390